

藤原宮跡第21次現地説明会資料 5.53.1.21

奈良国立文化財研究所 飛鳥・藤原宮跡発掘調査部

調査期間 1977年12月6日～1978年2月中旬

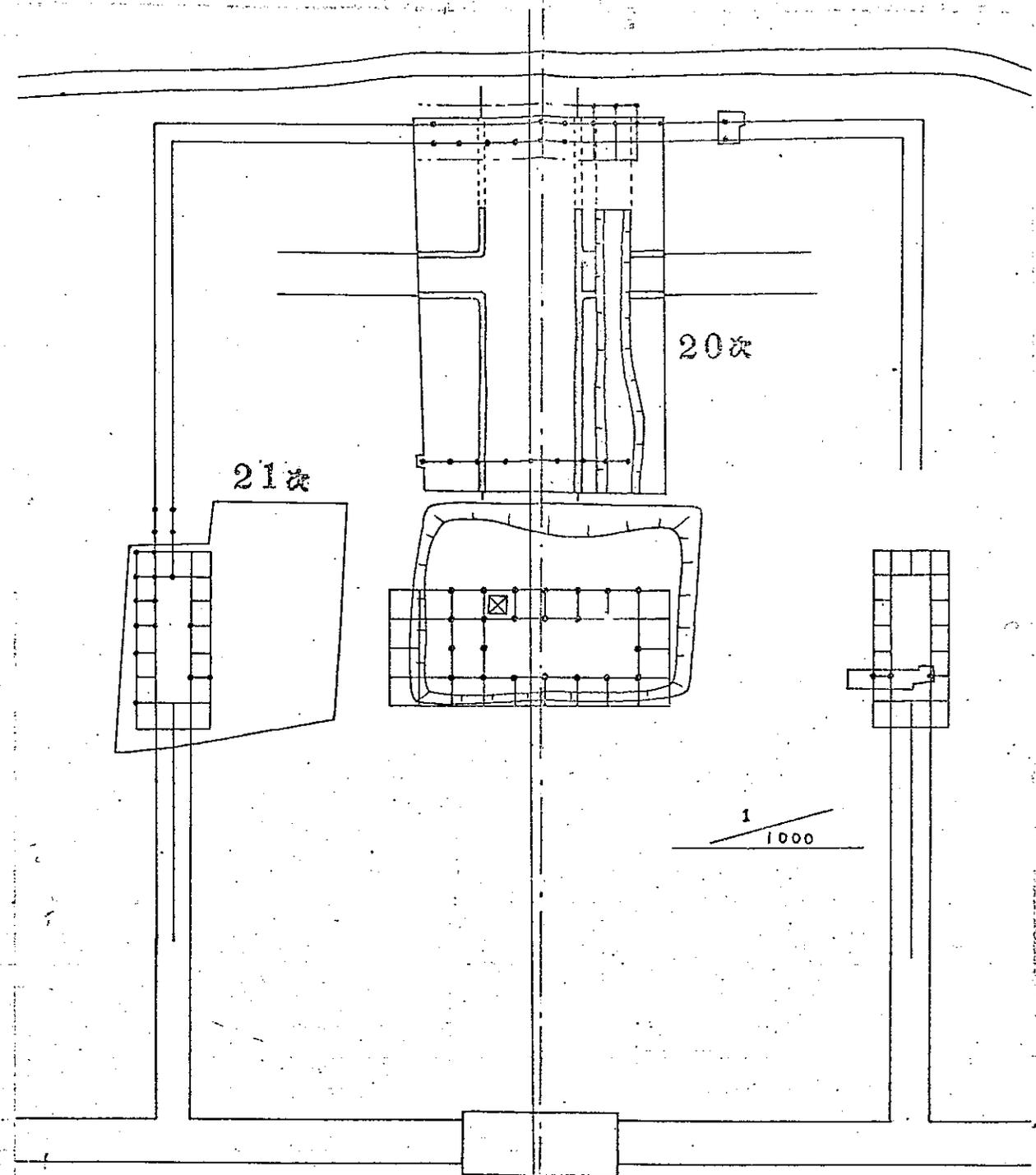
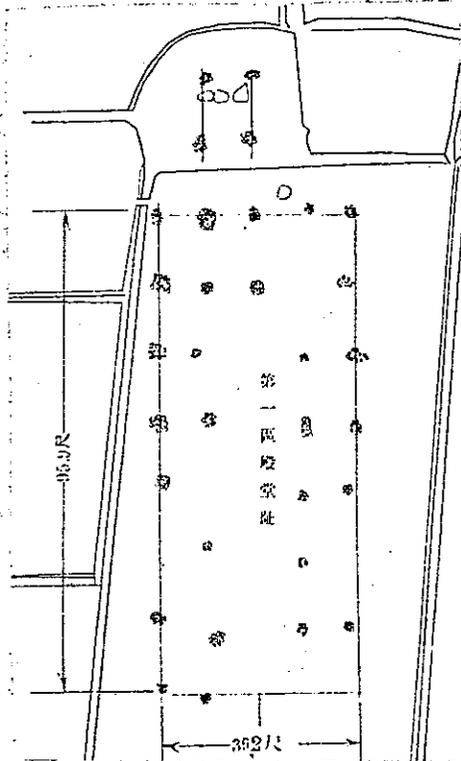
調査地区 藤原宮大極殿西殿 発掘面積 1000m²

調査目的 日本古文化研究所が昭和9年にトレンチおよび坪掘り調査で検出した西殿跡をより正確に再確認するためにこの地区を調査した。

検出遺構 検出した主要な遺構は西殿とその造営に伴う足場穴、および藤原宮廃絶後に建てられた掘立柱建物数棟その他である。

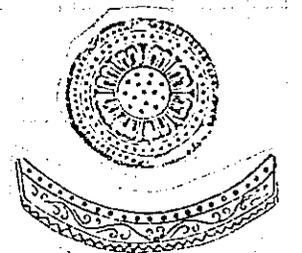
西殿は南北棟の礎石建物で、桁行7間(全長28.7m)、梁間4間(全長12.4m)で、いずれも礎石根固め石のみが残っていた。日本古文化研究所はこれを28ヶ所検出しているが、今回の調査では14ヶ所を確認した。柱間は桁行約4.1m、梁行約3mである。西殿の位置は、藤原宮北面中門と南面中門ともむすぶ中軸線(朝堂院中軸線に一致する)に対して、東殿と対照の位置にあることが確認された。東殿の位置は日本古文化研究所で検出されているが、その位置については1977年1月整備に伴う調査で当研究所も確認している。なお、大極殿周辺の日本古文化研究所の調査結果とこれまでの当研究所の調査(20次調査をふくめて)との異同について述べると、

1) 大極殿院北門の確認できなかったこと
2) 大極殿が同中軸線にのらず、その下層の道路SF1920の軸線にのること
等が注目される。



SD1901A出土木簡

- (1) 甲申年七月三日 □
- 日仕甘於連□
- (2) 壬午年十月□□□毛野
- (3) 法忍師前 小僧吾白啓者我尻坐傷止
僧□者 □□



大極殿院軒瓦組合せ